

若さが弾ける

校 長 武井 正明

こないだ人間ドックの結果が来た。

昔は体力テストの年齢を見るのが楽しみだったが、この数年、数値は後退していく一方。最近は見るのが少しコワくなってきた。

必ず記載されているのが4年前からおきまりの「視神経乳頭凹拡大」「脂質異常症」だ。この先、緑内障になるのが、見えなくなるのが本当に怖い。お菓子など甘いものも食べ過ぎだ。判定は「E」これは、模試の判定で高校時代から見慣れているから、大したダメージはない。体力測定も52歳。以前は35歳とかで得意になっていた。まあこんなものか…。苦手な、目を閉じて片足で立つのは、たった3秒、この失敗が響いた。

そんなふうに歳を感じていたところへ「イキのいい奴」が吉中に登場した。

教育実習生の矢澤先生だ。大学3年、吉中の先輩0B。笑顔が爽やか。フレッシュさが違う。筋肉が若い。彼にとって、吉中での実習が人生初めての教育実習だ。

先日早速、彼の初授業を見た。実習二日目「鉄は熱いうちに打て」だな。

見るからに緊張している。そして一生懸命。このひたむきで謙虚な姿が、吉中生達の心を動かす。3年女子からは「まだまだ未熟な矢澤先生を、皆で育ててあげようよ」という母親的な空気が伝わってくる。必死に頑張るイケメンに、実に好意的かつ協力的だ。これが私や丹波先生だったら、こうはいかない。「授業開始後15分経ったら、波に乗ってきた」と指導教官の山田先生も評価する。



授業後の本人に、授業どうだった？と訊いてみた。

「自分たち大学生の『楽しい』と中学生が『楽しい』は違うと思うんです。中学生が楽しいと感じる授業をしたいです」と目を輝かせて答える。中学生の目線、いい視点じゃないか。彼は将来、高校か中学の保健体育の教師志望だ。

なってほしいねえ、こういう若者に。

例年複数での実習だが、今回は彼ひとりで心細く、何かと気を遣うことも多いだろう。でも、そうやって頑張っている姿は、誰もが応援したくなるものだ。いろんな気配りも、社会に出れば不可欠なもの。毎日が成長、日々前進、全部人生のプラスにしてほしい。

私はもう、残念ながら実習生を担当することはないだろう。

だから、山田先生が羨ましい。先生の今まで吉中で培ってきた技術を、矢澤先生に惜しみなく伝授していただきたい。

それにしても未来があっていいなあ。俺もあの頃に戻りたいなあ…。